

CONTENTS

- 2 キラリ輝く奥州人
- 3 【特集】ごみの行く先
—ごみも負担も少ないまちへ—
- 8 美女旅×いわて『一関・奥州・平泉～世界遺産の旅～』編
完成！
- 9 地域6次産業化 一育てよう
元気の芽
北上川堤防に車止めを設置
します
- 10 旧土地開発公社土地の処分
活用状況
- 11 受給者証・保険証が新しく
なります
- 12 調査の政治家後藤新平と国
勢調査
- 13 広報紙で振り返る奥州市の
10年
- 14 I L C希望のひかり
- 15 市政ズームイン
- 16 まちの話題
- 18 夢トーク
青春讃歌
- 19 雨の日も晴れの日も
市長コラム「おうしゅう羅針盤」
- 20 第40回水沢ざつつあかまつ
り参加団体募集中！
姉妹都市 掛川だより
- 21 我が家のアイドル拡大版
- 22 わんパクションの食育講座
子ども喜ぶ人気メニュー
- 23 子そだて広場
子そだて行事予定
- 24 情報あらかると
- 28 奥州遺産

地域の個性が
ひかり輝く
自治と協働のまち
奥州市

キラリ輝く
奥州人
21

物作りの喜びと
伝統の技を伝えていく

佐々木奈美さん（31歳）
胆沢区若柳字土橋



木型を回して鑄型を作る「型挽」の工程

土と鉄の匂いに包まれた工房の一角、佐々木奈美さんは真剣なまなざしで、黙々と「型挽」の作業を進める。
小さい頃から物を作ることが大好きだった奈美さん。将来の仕事に——とは考えていなかったが、高校卒業を控えて進路を考えた時「美術の仕事に就きたい」という自分の気持ちにあらためて気付いた。山形県の東北芸術工科大学に進学し、洋画コースを専攻。卒業後は岩手県立美術館の教育普及専門職員として、子ども向けのワークショップなども



ささき・なみ◎昭和59年、胆沢区若柳生まれ。水沢鑄物工業協同組合が公募した研修生の1人として、水沢区羽田町の及喜鑄造所で南部鉄器作りを学ぶ。趣味は美術館巡り。両親と猫のサワーと暮らす

の企画・運営を担当した。美術館の仕事は充実していたが「物作りで食べていくことに魅力を感じた」と、28歳で鑄物の世界に飛び込んだ。一人前になるまで10年という鑄物職人だが、奈美さんの研修期間は3年。その後は一人の職人として、南部鉄器作りで生計を立てていかなければいけない。「技術をしっかりと修得した上で、自分らしさを出していったら——」と作業に打ち込む奈美さんは、職人の魂を胸に、伝統の技を受け継いでいく。

〈今月の表紙〉



街なか音の祭典(奥州エフエム放送協主催)が6月14日、水沢駅通りとメイプルを会場に開催され、園児や厄年連の演舞、学生の演奏のほか、ジャズやものまねライブなど、さまざまな音楽が3つの特設ステージで奏でられました。第58回水沢商人まつりも併せて開催されたこの日、訪れた観客は音楽に耳を傾けながら、立ち並んだお店で買い物や食事を楽しんでいました。
写真は、同祭典で迫力満点の創作太鼓を披露した「奥州水沢蠅人(あつしゅうすずめ)和太鼓乃会」。その表情から、リリシさと楽しさが伝わってきます。



【特集】
ごみの行く先
—ごみも負担も少ないまちへ—

収集・運搬
市の負担
年間
約2億円

家庭から出るごみは
1日59・5ト
日々の生活の中で必ず発生するごみは、大きく「燃えるごみ」「燃えないごみ」「粗大ごみ」の3つに分けられます。市では、このうち燃えるごみと燃えないごみを定期的に各地域のごみステーションで回収し、「胆江地区衛生センター」に運んでいます。本市には現在1908カ所のごみステーションがあり、回収される年間の家庭ごみの量は、26年度の実績で燃えるごみが2万412ト、燃えないごみが1305ト。1日当たりの量を計算すると59・5トになり、ごみ収集車約30台分に上ります。

ごみの分別と出し方を再確認！

- ▶ マヨネーズやドレッシングなど、汚れの落ちにくいプラスチック製容器は燃えるごみに
- ▶ 革・ゴム製品、容器包装以外のプラスチック、アルミホイル、CD・DVD、ビデオテープは燃えるごみに
- ▶ 刃物は紙に包んで燃えないごみに
- ▶ 瀬戸物やガラス製品は紙に包まないで燃えないごみに

ごみの収集・運搬作業には、年間約2億円の費用が掛かっており、ごみの量が増えたと運搬に必要な人手や時間も増え、費用負担が増えることになります。